

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム プランタン (3ユニット共通)	評価実施年月日	平成19年11月15日
評価実施構成員氏名	山海 智香子 ・ 大泉 真澄 ・ 小林 紀美子 ・ 伊藤 妙子 ・ 門脇 美由紀 ・ 中山 明子		
記録者氏名	門脇 美由紀	記録年月日	平成19年11月17日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	当事業所のスローガンを基盤として、独自の理念の形成と充実に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	日常の業務連絡を通じ、法令等の意義を周知し理解してもらうと共に、当事業所の運営方針や目標を示し理解してもらうことで、理念の共有や個々の理念の形成に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	当事業所の理念は見やすい場所に明示し、家族や面会来訪者、また運営推進会議を通じて説明し、理解を得ている。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	事業所内の見学や内容等を聞きに訪れているなかで、民生委員や町内会役員、入居者の家族を通じて日常的で気軽な付き合いへの働きかけを行っている。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議の実施開催や、町内会の加入、町内の行事や祭事の参加、医療機関や理美容の利用を通じ、交流と理解に努めている。		
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	当事業所は、デイサービスセンター、小規模多機能型事業所、居宅介護支援事業所が併設されていることもあり、包括支援センターや居宅介護支援事業所等の情報交換も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	個別カンファレンスを開催し、ケアプランに対し中間評価を行うことでケアプランの見直しを図り、サービスの改善や質の向上に取り組んでいる。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	当事業所での状況等の報告や意見交換を行い、書面にて再度取りまとめたものを参加者や入居者の家族、町内会長に配布サービスの向上に生かしている		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市から連絡された研修会等には、積極的に参加をし情報を得ている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	市や他事業所、関連施設などから連絡された研修会や勉強会等には積極的に参加し、得た情報に関し必要を要するか都度検討し活用している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日常の業務連絡やミーティングを通じて、法令等の周知をし理解を深めていくと共に、職員間や家族間のつながりを深めていくことで防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や解約時には十分な時間を作り、説明を行いながら理解・納得を得られている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>現在、外部者への相談機会はないが、相談や苦情に関しては、常に管理者や職員が受け付けし、全員で迅速な対応ができるよう努め、家族にも協力を求めている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>遠方の家族もあるが、少なくとも一ヶ月に一度は面会を依頼し、来訪時には個々にあわせた報告をしている。職員の異動についても、面会時や文章での報告を行っている。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族からの意見や不満、苦情等は、管理者や職員にて都度対応できるよう指導していると同時に、契約書内にも外部者への苦情等の申し立て機関を明記している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>職員の意見は反映している。受入時には入居者判定会議の開催や、代表者や管理者が中心となり意見交換の場を設けている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>入居者の状態や状況、生活の中で必要に応じて職員を配置している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>馴染みの職員が介入しながら、移動による職員の関わりを形成できるよう対応している。また、現状では、異動や離職での利用者のダメージは見られていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>研修等は、積極的に受講してもらい、受講した者が報告会を開催している。また、当事業所ではヘルパー2級養成を行っている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>同業者との運営推進会議の参加や勉強会、相互の見学等にて情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員の悩み事は常に応じているが、更に検討が必要とされている。</p>	○	<p>食事会など、業務を離れた交流の場を作り、コミュニケーションを深める環境づくりをしている。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>定期的な会議を行い、状況把握されており、業務年数を経過したものについては、資格習得などの目的による研修受講をしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前に本人との面談時間を設け、聴取の機会を作っている。</p>	○	<p>当事業所の理念を説明したうえで、理解を得てからサービス提供をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居時の環境変化により、不穏状態になる恐れがあることを家族、職員に説明し、家族側としての状況の聴取の機会を作っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族の承諾を得たうえで、必要に応じた関連機関への情報提供をしたり、職員と良く話し合いながらサービスを検討している。	○	当事業所のできるサービス、できないサービスは、明確に説明をしている。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	主治医に、グループホームへの入居に適しているか判断してもらい、家族、本人との面談のうえ、入居判定会議により決定しているが、お試し期間としての利用は設けてはいない。	○	サービス内容を、詳しく、分かりやすく説明している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	残存機能の活用や生活歴の活用、職員の暖かい声掛けにて、より感情豊かな生活を送っていける関係を形成している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	生活の様子を定期的に報告し、家族の協力と理解を深めながら、家族の意向や希望を聴取し共有できる関係を形成している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	双方の差し支えない中で介入しながら、その都度の現状報告や把握にて、理解を得られている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の理解や協力を得ながら、職員と一緒に保持している。	○	家族関係や本人と家族の関係により、断ち切ることを望まれていることもあることで、すべてが保持されているわけではない。双方の意見等を聞きながら、都度の対応を図っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気のあった入居者同士は、自然に近づいて行ってそれぞれに懇親を深めている。職員が介入しつつ入居者同士で介助したり、優しい言葉を掛け合ったり、昔の生活を振り返る会話など、助け合いの気持ちを相互に表している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても、関わりを必要とする状況に関しては、相互に密な連絡を取りながら最善の方法を選択できる付き合いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の意向が反映できるよう、傾聴したり、聴取している。決して押し付けにならないように周知している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者の昔話などを聞くことで経験の一端を知り、環境を垣間見る事になり、コミュニケーションを深めながら希望に添った対応をしている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	認知症の程度により、各入居者の技量や知恵を引き出すことに差があり、万全とは言えないが、一日一日が感情豊かで、自然な形で持てる力を発揮できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	入居者の状況に合わせた担当者会議を行い、管理者、職員、家族同席の元にアセスメントし課題の掌握に努め、変化に柔軟な対応に心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の施行期間は6ヵ月を目安としているが、その間に介護状況の変化が見られるときには、家族の意向を聴取しながら担当者会議を行い新たな計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の出来事や変化は、各個人の介護記録に記録し、保存している。また、介護記録のほかに連絡帳を作り、重要な点においては職員が周知情報の共有を行い、職員の意見は随時取り入れ協議し、直ちに介護計画へ反映させるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力医療機関や介護福祉施設は良く理解をしてくれており、柔軟な支援ができるよう情報交換や支援をしてくれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	大学生や一般のボランティアや警察など、認知症の理解を求めながら働きかけを行い協力している。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は、他のサービスの利用はないが、必要に応じて他事業所との連携を図り利用していく。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者の必要に応じて、地域包括支援センターと協働をしている。	○	地域包括支援センターの開催する研修等に参加し、情報を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	相談のできる看護師は施設内において、協力医院や入居前に入居者がかかっていた医師や入居者、家族の意見を尊重し、診療を受けている。	○	協力医の往診対応、24時間受入体制を行っている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医院も含め、確保している。	○	地域に、認知症専門病院があり、入居者の状況に合わせて受診している。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携による看護師の確保、施設内での看護師の確保ができています。また、入居前に入居者がかかっていた医療機関への診療も受けていることで、馴染みの看護師の確保もされている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院に際し、家族と相談しながら、1日も早く退院でき安心できる生活が送れるよう担当医師にも働きかけている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居者の状況把握を行いながら、医療機関、職員、家族との間で話し合いを行いながら終末期の対応を図っている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	担当医師との密な連携を図り、職員間でも家族や入居者の意向を尊重しながら会議を行い、日々の変化や状況把握に努めチームケアとしての取り組みを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境の変化による入居者の精神状態を十分に配慮し、関係者や職員、家族、入居者の間で十分な検討や話し合いを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者一人ひとりに見合った会話や言葉掛けを心掛け、人格を否定するような言葉は絶対に使わないように周知している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の意向が反映できるように選択のチャンスを作り、選択を歓迎したり、喜び合ったりするようにしている。決して押し付けにならないように周知している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務は入居者が優先である。業務の都合を優先しないようにし、入居者の意向をないがしろにすることはない。また、入居者の顔を見ながら目線を合わせ、言わんとすることを確認しながらコミュニケーションを深め、希望に添った対応をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	普段着でも、「似合う」「素敵」の言葉によって整容に関心を持つように言葉掛けを行い、理・美容に関しては、出張理美容師により、一人ひとりの希望に添って行っている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力に合わせ、見守りの職員がさりげなく対応している。また、馴染みの食器の利用、その人に合わせた配膳、下膳、食事内容、料理補助を行い、食事の際には職員が同じものを食べコミュニケーションの場としても活用している。	○	入居者のお誕生日の日には、本人お好きなメニューを提供しお祝っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲酒については、医師の制限がない限り特に制限はしていない。喫煙に関しては、決められた場所で職員の見守りにより喫煙してもらい、それ以外の場所では禁煙としていることを家族にも理解されている。また、一人ひとりの疾患も踏まえながら、おやつや飲み物も自由に楽しめている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	書入居者の排泄パターンを把握し、時間に従うだけでなく、なるべくトイレでの排泄が行えるよう、こまめに誘導と排泄介助を行っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴はプライバシーを保持し、気の合った者同士の入浴に心がけている。また、希望により入浴し、要介護者には入浴介助しながら、できるだけ入浴拒否のないように心がけている。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜が逆転していても、特別な扱いはしていない。むりなく平常に復帰できるよう、ゆっくりなリズムを誘導している。また、談話室は自由に過ごせる場所で、休息は自由な空間として提供している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常的には、トランプやオセロ、パズル、カラオケ、将棋、囲碁などが、いつでもできるようにしてあり、食器の配膳や下膳、洗濯物たたみや簡単な調理補助など一人ひとりに合わせた楽しみごとや役割などを提供している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で金銭管理のできる入居者は少なく、殆ど入居者が日常の経費は家族の依頼や支援、事務所に預かりになっている。希望者や一人ひとりの状況に応じて家族の了解の元、お金を支払うことへの支援はされている。	○	お金を持つことにより安心する入居者も多く、家族の理解を得て支援を行っている。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	施設前の庭など、車椅子や歩行器でも外へ出られる環境にもあり、買い物などの希望者には、できるだけ希望に添えるように職員を配置し支援している。また、事業所前において、外でのイベント(食事など)を季節に合わせて提供している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ユニットごとや合同イベントとして職員が企画を立て、季節の景観などを楽しむ機会を形成している。	○	家族の状況もあり、家族参加ができないことが多い為、家族も一緒に参加できるような日程や企画を検討している。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	入居者の希望を尊重し、家族にも協力を得ながら行っている。入居者の希望や状況に合わせて各居室に電話の取り付けも可能であり、入居者の状況に合わせては事務所の電話も使用している。	○	家族によっては、忙しいことでなかなか自由に連絡も取れない入居者もいる為、家族の理解を深められるよう検討し、対応している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会に来られる家族や知人など、一緒に過ごせる時間を大切にしている。また、気軽に訪問できるように開放している。	○	一部の入居者においては、知人や家族の面会がなく、交流が少ない部分もある為、家族の理解を求め、入居者が寂しい思いをしないように職員も介入しながら支援している。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員には基準を周知、理解してもらっている。家庭の延長にあるグループホームなので、身体拘束は絶対にあるはずはない。心のこもった介護、安らかで快適なケアを目指している。	○	今までには例はないが、どうしても必要となった場合には、代替ケアが考えられない時で、一時的なものであり家族にも了解を得ている。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の外出等には、職員が十分な配慮を行うことで、玄関の夜間の施錠以外は施錠していない。	○	今まで使用していないが、緊急性のあるときの為に鍵はついている。
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員を、常に入居者を見守りやすい場所にて、一人ひとりの様子を把握し対応している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状況に合わせて、家族と相談し了解のうえで居室に置いている入居者もいるが、刃物等は職員が使用している台所に、薬等は事務所に保管されており、入居者の傍には保管されていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の対応の研修は、消防等の機関を通じて受けており、緊急対応マニュアルによって対応している。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署による普通救命講習や、医療機関等での研修会等には、積極的に参加している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導による避難訓練を年2回実施しており、運営推進会議においても、地域の方々の理解と協力を得ている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時の際にも、環境の変化や身体状況にて起こりうるリスクの説明や話し合いを行い、リスクが考えられる際には、都度家族への報告、連絡、相談を行いながら、職員にも周知した対応をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の状態については、ケース記録や温度板に記録されていて、変化がすぐに把握できている。また、協力医院との連携にて、時間外にても対応が図れている。	○	変化が見られるときには、すぐにバイタルサインチェックを行うことを職員に徹底している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人ひとりの1回分を分封し、目的、副作用、用法や用量を徹底的に指導し、ケース記録の中にも貼付している。	○	誤薬(他の入居者の薬を飲んでしまった等)でも、どのような症状が起こるのか、またその時の対応も指導している。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分の適量摂取に心がけて、1日の水分摂取量のチェックを行うと共に、歩行運動やボール運動など、運動をするように呼びかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨き、うがい、義歯の清掃は、毎食後入居者の状況に応じて行っている。また、必要に応じて、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取カロリーの正確な係数はつかんではないが、栄養バランスは、常識的な範囲である。また、水分の摂取量は、各個人の把握できている範囲内にて記録されており、一人ひとりの状態に合わせて習慣付けている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居時には、感染症の検査を行っている。また、職員は常に手を洗い、アルコール消毒を義務付け、必要に応じ介護手袋を使用している。入居者に関しては、インフルエンザワクチン接種を施行している		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所や調理器具等は、常に消毒を行うよう指導徹底している。また、食材においても、新鮮な食材の使用、管理を行っている。また、季節柄において食中毒の恐れのある食材に関しては、期間を限定して使用していない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の周りには、入居者や家族のボランティアにより花壇やプランターを造り、家族的な雰囲気造りに努めている。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	事業所のすべてが家庭の延長であるとの基本に基づいて、設備や調度品等を設置してある。	○	自分が今まで使用していた家具などを持ち込み、生活ができる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p> <p>食道や談話室は、常に入居者同士の団欒の場となり、トランプやオセロなど、自由なくつろぎの空間となっている。また、設備や調度品などを配置してある。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p> <p>約23帖の居室は、入居者それぞれが使い慣れた家具や調度品を持参して、入居者自らが安心して過ごせる環境を作っている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p> <p>各居室には、シャワー室にてトイレも換気を行い、共用部については天井扇にて行う。また、季節などに合わせて、居室の窓の開閉にて換気を行ったり、アロマテラピーを取り入れ、消臭を行ってもいる。冬季は、職員によって、居室内の温度調整をしている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p> <p>廊下には手すりを設け、車椅子や歩行器を用意し、各居室にトイレを設置している。トイレも、入居者の状態に合わせて手すりを設け、衛生に配慮したウォッシュレット式を設置している。</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p> <p>自分の部屋が分からなくなったりしてしまう入居者には、目印を付けたり、常に職員の見守りの中で誘導もしている。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p> <p>建物の外回りには、物干し台を設置し、一緒に洗濯物を干したり、庭で家庭菜園や花壇作りができるようになっている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">①</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p> <p style="text-align: right;">②</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

旭川市内で唯一の3ユニットのグループホームであり、24床設けている。また、1床あたり約23帖と、ゆったりと広い居室で、夫婦での利用ができ、家族の宿泊も可能な環境を提供している。